

やさしい日本語で コミュニケーション

外国人にわかりやすく情報を伝えるには



なぜ、やさしい日本語をつかうの？

神奈川県内には、多くの外国籍の人たちが暮らしており、それぞれ文化的背景や使っている言葉が異なります。

かながわでは どのような言葉が話されているのでしょうか？

中国語 韓国・朝鮮語 タガログ語 ポルトガル語 スペイン語 英語 ベトナム語 タイ語
インドネシア語 カンボジア語 ラオス語 などなど…



私たちの周りにはたくさんの情報があります。しかし、その多くは日本語のため、日本語を母語としない外国人には届きにくく、必要な情報や正確な情報を得られず不安な生活を送っている外国人も多くいます。必要な情報を全て各国語に翻訳できるとよいのですが、実現は難しい状況です。

一方、やさしい日本語なら理解できる外国人も多いです。日本で暮らすには日本語で情報を得るのが効率的です。日本語であれば周りの日本人と助け合うことができ、また、情報を交換することもできます。そこで、情報を伝える方法としてやさしい日本語が使われるようになりました。

外国人がやさしい日本語で書かれた手続きやサービスの内容についてもっと知りたいと思ったときは、その資料を見せれば、尋ねられた人は相手の状況を考えながら説明ができるのではないのでしょうか。やさしい日本語の情報を通して、外国人と地域の人とのコミュニケーションが生まれることが期待できます。

1

やさしい日本語とは どのようなもの？

やさしい日本語とはどのようなものでしょうか？
次の2つの文章をくらべてみましょう。

元の文章

◇保育所の一時保育
保護者等のパート就労や病気等により一時的に家庭での保育が困難となる場合や、保護者のリフレッシュのために児童をお預かりする制度です。
保育時間は原則として各施設の開所時間です。

やさしい日本語にした文章

◇保育所<子どもの世話をしてくれるところ>
保育所は あなたの代わりに子どもの世話をしてくれます。
少しの間だけ世話をしてもらうことができます。
次のとき 保育所を使ってください。
・あなたが 働くとき
・あなたが 病気になったとき
・あなたに 用事があるとき
(世話をしてもらうことができる 時間)
それぞれの 保育所で 違います。
あなたの 近くにある 保育所を 調べてください。

その人の出身国や経験によっても「わかりやすい」「やさしい」と感じる日本語はさまざまですが、やさしい日本語にした文章の方が内容が伝わりやすくなっています。読んでわかれば自分や家族に関係のある情報か、もっと詳しく知りたいかなど、その情報をどのように活用するか自分自身で判断することができます。

外国人の方に接したときに、「これは相手にとってわかりやすい言葉だろうか」「聞き取りやすい話し方ができているだろうか」と、立ち止まって考えるゆとりを私たちが持てるというですね。



2

災害のときに役立つ「やさしい日本語」

災害発生時に変わっていく情報をたくさんの言葉に翻訳するのはとても難しいことです。
多くの外国人に正確に、簡潔に、迅速に情報を伝えるためには、「やさしい日本語」が役に立ちます。

元の文章

3月11日(金)14時46分頃、東北地方の太平洋沖で大きな地震が発生しました。
またその後も大きな余震が続いています。
太平洋沿岸を中心に、大津波警報が発令され、大きな津波が押し寄せています。
津波は一度波が引いても、何度も繰り返してやってくる場合があります。
大津波警報や津波警報が出ている地域では、高いところに避難してください。
海や川などに近づかないでください。

やさしい日本語にした文章

3月11日 午後2時46分に 東北地方の 東の 海で 大きい 地震が ありました。
地震は 1回だけでは ありません。何回も 起きています。
東北地方の 太平洋側は 津波<とても 高い波>に 注意してください。
海から 近い ところに 高い 波が 来ます。
高い 波は 1回だけでは ありません。何回も 来ます。
海から 近い ところに いる人は 高い ところへ 行ってください。
海や 川の 近くへ 行かないで ください。

言い換えるルールとして、①重要な情報に絞り込む、②あいまいな表現は避ける、③難しい言葉を言い換える、④災害時に使われる言葉、知っておいた方がよい言葉には「やさしい日本語」を添える(「余震」→「余震<あとから来る地震>」、「避難所」→「避難所<逃げる場所>」など)、⑤複雑でわかりにくい表現は、文の構造を簡単にする などがあります。



3

やさしい日本語によるコミュニケーションの方法

書くとき

①要点を伝える

・情報の中で、伝えるべき要点は何かを考え絞り込む。

②主題や概要が一目でわかるようにする

・見出しや最初の一行で、何の情報かわかるようにする。
・シンプルでわかりやすいイラストや絵によるサイン(ピクトグラム)も有効である。

③簡単にする

・基本的でやさしい言葉や表現、やさしい漢字を使う。
・語彙と漢字は日本語能力試験N4・N5レベル(旧3・4級)※を目安にする。
これは小学校低学年程度の語彙・漢字レベルに相当する。
・漢字にルビを振る。
・一文を短く主語と述語の関係がわかりやすい文にし、修飾語も短く簡単な言葉にする。
・二重否定は言い換える。「通れないことはない」→「通ることができる」

④見やすくする

・意味のまとまりで区切り、スペースを空ける。
・ひとつの言葉が二行に渡らないよう、改行する。

⑤暮らしに必要な・役立つ言葉や表現はとり入れる

・日常生活で知っておいた方がよい言葉はそのまま使い、
言葉の後にく　　>で意味の説明をつける。
→ 申請<申し込み>、必着<その日までに 相手に とどくように 送る>
・年号は、西暦を用いる。



※日本語能力試験 認定の目安 www.jlpt.jp/about/levelsummary.html
日本語読解学習支援システム リーディングチュウ太 www.language.tiu.ac.jp/
・・・語彙と漢字の難易度を日本語能力試験のレベルで判定します。

話すとき

①わかりやすく話す

・重要な言葉が聞き取りやすいように発音し、意味のまとまりで区切りながら話す。
・難しい言葉は、日常会話で使うことがより多い言葉に言い換える。
・なるべく、です・ます調で話す。
※敬語を使わなくても、相手への敬意は言い方・語気・視線などで伝えられる。
「ご不明な点があればお尋ねください」→「わからないとき 聞いてください」

②コミュニケーションを大切にする

・相手の表情や反応を見ながら話す。
・相手がわかっていないと感じたら、ゆっくり繰り返したり(意味がわからないのではなく、聞き取れていないことも多い)、言い換えたりする。

③声だけでなく、視覚に訴える

・写真や絵・実物を見せる、イラストや図を書く。
・重要な言葉や用件、重要な数字は紙に書いて渡す。
・話しながら文書の大切な部分をマーカーで強調したり、下線を引く。

④態度・姿勢を大切に

・相手の話に関心を持っていることが伝わるように
表情や態度で示しながら、話を聞く。
・母国を離れて暮らしている外国人の貴重な経験を尊重する。



私にとっての やさしい日本語

「相手の背景に合わせた対応も必要」

李原翔さん(中国)

私は結婚を機に中国から来日しました。来日後は日本語がほとんど話せず、日本語学校や日本語教室に通い少しずつ生活に慣れていく中、息子と娘が生まれました。

ある時、娘の遠足の持ち物で、おしぼりをぬらしてケースに入れて持たせなければいけなかったのですが、学校からのおたよりがきちんと読めず、私は乾いたタオルをビニール袋に入れて持たせてしまいました。娘は先生に怒られ、私も帰ってきてから娘に責められ「日本人のお母さんが良かった」と言われた時はとても辛かったです。

外国人向けにわかりやすく情報を伝える方法ですが、ひらがなを多く使いやさしい文章にするよりも、漢字が多い方が中国の人には意味が伝わりやすいようです。

漢字を使わない国の出身者は、ひらがなが多い方が読みやすいと思うので、情報を伝えたい相手の文化や背景、経験によって伝え方を考えるのが良いと思います。

また、私が今教育相談をしている場所では日本語教室も行われており、授業帰りの中国のお母さんの育児や生活相談にのり、自分の知っている情報を伝えています。

信頼関係が成り立っている上で情報を伝えることが大切だと感じます。

「コミュニケーションをとりながら伝えて」

山崎ドナテラさん(フィリピン)

来日して間もない頃、スーパーに「たわし」を買いに行きました。「たわし」を「わたし」と間違えてしまい、スーパーの人に「『わたし』が欲しいのですが」と言ってしまった失敗談があります。

その時は、ジェスチャーを交えたらわかってくれましたが・・・

私は、人に何かして欲しかったら、まず自分から行動を起こし、言葉に出さなければ伝わらないと思っています。子どもが小学校に入学したときは、外国人の子どもだといじめられないか不安だったので、積極的に学校に関わり、学校の役員も務めました。

そこで、日本人のお母さんと知り合いになり、いろいろな情報交換ができました。また、日本人のお母さんからの依頼で、自宅で英会話教室も開いていたので、学校からのおたよりでわからない箇所があると、友だちが「ちゃんと読めた?大丈夫?」と声をかけてくれて助かったことが何度もありました。

大切な情報は今後も多言語化を進めて欲しいですが、日本語であれば、イラストを使ったり、コミュニケーションをとりながら伝えていくのが良いと思います。



発行:公益財団法人 かながわ国際交流財団

www.kifjp.org

TEL:045-620-4466

(公財)かながわ国際交流財団は、地球のすべての人が国境や人権、文化の違いをこえて、いきいきと心豊かに暮らせる社会の実現のため県内各地で様々な事業を実施しています。

協力:グループ「みらい」(木野美穂、木下寛子)